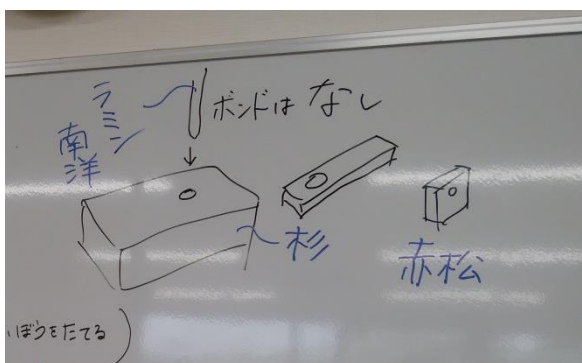


サポセン mail No.202. 2021. 9. 20 発行

〈発行元〉 特定非営利活動法人 緑区子どもサポートセンター
千葉市緑区誉田町 2-21-684-101 TEL&FAX 043-377-8490
E-MAIL:kids-support-midori@coffee.ocn.ne.jp
URL:http://saposen.konijiki.jp/

木のぬくもりがあるおもちゃ

8月22日（日）あすみが丘プラザに佐倉市から奥津輝久さん（てるさん）と奥津友子さん（ともさん）が来てくれました。お二人とはもう10年以上前からのお付き合いで、いつもぬくもりのある木を使ったおもちゃ作りを指導していただいています。



今回の木の材料は土台の部分が杉で発射台の部分は赤松です。立てる棒はラミンといって南洋の植物だそうです。一人ひとりの材料も同じものはありません。



横の皮の部分が大きかったり上の部分が少し狭かったり、子どもたちは自分の気に入った材料の前に座りました。



最初に紙やすりでやすり掛けをします。やすり掛けは地味で根気がいる作業ですが、みんなよく集中して頑張っていました。次に紐をボンドでほつれ止めをして、乾かしておきます。組み立て方は分かりやすく低学年の子たちにも作りやすいものでした。棒を穴に差し込み発射台をボンドで固定しました。ほつれ止めをした紐は輪っかにして発射台から飛

ばします。棒の先に引っかかったら大成功！棒の先に三角形のひっかけをボンドで固定しますが、低い位置につければ簡単ですが、高い位置に固定すると引っ掛けるのは難しくなります。

ここでてんかいくんのひっかけが割れてしまいました。部品を取り換えることもできましたが、てるさんが「自分で作る木のおもちゃのいいところは、壊れたら直せるところだよ！」と教えてくれました。てんかいくんはボンドでくっつけて上手に引っ掛けを直しました。



だいたい子どもたちが作り終えて輪っかを飛ばして遊んでいたとき、てるさんが「興味がある人が聞いてくれればいいよ！」と子どもたちに話し始めました。

「人間には五感っていうのがあっていろんなことを感じるんだけど、どんなのがあるかなあ？」

子どもたちは「見る」「聞く」「嗅ぐ」「考える」「さわる」「味わう」など思いついたことをどんどん言っていきます。高学年のはなちゃん、かのんちゃんは「聴力」「味覚」「視覚」「嗅覚」など難しい言葉を知って



いて、どんどん発言します。テルさんが「触覚」とか「思考力」もあるね。飛行機に乗った時に「重力」を感じることもあるよね。人間はこんなにいろいろな感覚が脳に信号を送っていろんなことを考えるんだよね。脳と体をつなぐのが、「ニューロン」という神経細胞なんだよ！と話します。「遊び」の中には自然のものと自然じゃないものがあるね。誰かが「人工」と言いました。その人工のおもちゃ、たとえば「ゲーム」とか「スマホ」とかをしているときは「視覚」や「反射（触覚）」とかほんの一部の感覚しか使わないんだ。だから長時間ゲームやスマホをやり続けると「ミラーニューロン」が育たないんだ。「ミラーニューロン」っていうのは人の身になって感じる神経です。「あの人寒そうだな。」とか「とっても痛そうだな。」って感じる能力が育たない。ということです。「これは大学の授業で習うことだからね。」「今わからなくても、いつか思い出すときがあればいいからね。」いつもてるさんは押しつけじゃなく、いつか思い出してくれればいいなと大切な話してくれます。目からの刺激を反射的に反応するのではなく、脳の前頭葉を使って考えたり、感じたりすることが大切なのです。

最後にともさんがひとり一人の作った作品をみんなに紹介しながら、子どもの頑張っていたところや作品の素敵な所を発表していきました。かずきくんは発射台から飛ばした輪っかが棒の先端に乗っかり、奇跡の一枚の写真をとることができました。すご〜い！



ともさんは子どもの頑張っていたところをしっかりと見ていて、それを紹介してくれました。講師の先生お二人の子どもへの優しいまなざしを感じることができ、温かい時間を過ごすことができました。



木のおもちゃは派手な光が出ることもないし、長時間やめられなくなるような強い刺激があるわけでもないけれども、五感を使っていろいろなことを感じることができます。

SNSでの人への批判や攻撃が問題になっている現在、考えなければいけないことですね。自分の感情をコントロールしたり上手く人とコミュニケーションをとったりできるように、子どもの時にたくさん脳の前頭葉を使いましょう。 (記 安藤)